

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公開番号】特開 2004-216026 (P2004-216026A)
 【公開日】平成 16 年 8 月 5 日 (2004.8.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-030
 【出願番号】特願 2003-9508 (P2003-9508)
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 G 7/05
 A 4 7 C 27/12
 A 4 7 C 27/14
 A 4 7 C 27/22
 A 6 1 G 5/00
 B 3 2 B 25/10

【F I】

A 6 1 G 7/04
 A 4 7 C 27/12 B
 A 4 7 C 27/14 B
 A 4 7 C 27/22 B
 A 6 1 G 5/00 5 0 3
 B 3 2 B 25/10

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 3 月 22 日 (2005.3.22)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【0 0 3 6】

以下、図面を参照して本発明の積層体および該積層体を構成するシート状構造体の形状についてさらに詳しく説明する。図 1 は本発明に係わる積層体の断面図の一例であり、(A) が凸部を有するシート状構造体であり、(B) が連続線状体のランダムなループ状またはカール状の隣接する線状体の相互を接触絡合してなる、空隙を有する三次元構造体である。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【0 0 4 1】

凸部の単位面積当たりの個数は、少なくなると荷重分散性が低下する傾向があり、一方、多くなると重量増加による取り扱い性、及び成形性が低下する傾向があるため、 $20 \sim 120$ 個 / 1000 cm^2 が好ましく、より好ましくは $30 \sim 100$ 個 / 1000 cm^2 である。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 3
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

実施例 1

熱可塑性エラストマーとして、(株)クラレ製「セプトン4055」(ビニル芳香族系エラストマー)80重量部および(株)クラレ製「セプトン4033」20重量部を混合したものに可塑剤としてプロセスオイル(出光石油社製の「ダイアナプロセスオイルPW-90」)を600重量部、150 に加熱しながら単軸押出機で混練した後、金型に流し込むことで、片面に複数の円錐台状の凸部を有するシート状構造体(A)(t_1 :5mm、 t_2 :15mm、 t_3 :30mm、 t_4 :20mm、 w :6mm、凸部の個数:81個/1000cm²)を得た。また、このシート状構造体(A)を100 に放冷後、熱可塑性樹脂として、エチレン酢酸ビニル共重合体(EVA:東ソー社製「ウルトラセン625」)を100 に溶融混練して、口径0.1mmの多数の射出口より押し出し、ループ状にランダムに成形させながら水中で固化することにより得られた、厚さ(t_5):50mm、嵩密度0.5g/cm³の三次元構造体シート(B)をシート状構造体(A)を構成する凸部と熱融着により接触させることにより図1に示すような形態を有する積層体を得、袋体で被覆した。この積層体を用いて前記の試験方法による評価を行った。結果を表1に示す。